

平成 28 年度職員採用試験（大学卒業程度）

水産 専門記述試験（28. 6. 26）

次の 2 つの課題のうち、いずれか 1 つの課題について答えなさい。

＝ 課 題 1 ＝

○水産資源の増大につながる瀬戸内海（里海）の再生策について

本県の水産業は、多くの島々と天然の岩礁や瀬に恵まれた好漁場と優れた漁業技術によって高い生産性を有し、県民に新鮮で多様な水産物を供給してきました。しかし、漁場環境の変化や水産資源の減少による漁獲量等の減少、魚価の低迷や、担い手の減少、高齢化等により、取り巻く環境は厳しさを増しています。

このような中、平成 27 年 10 月 2 日に一部改正された瀬戸内海環境保全特別措置法では、瀬戸内海の特徴を踏まえ今後の目指すべき将来像と環境保全・再生のあり方に関する基本理念が新たに盛り込まれました。

また、施策については、規制の措置のみならず、地域の多様な主体による活動を含め、藻場、干潟その他の沿岸域の良好な環境の保全・再生・創出等の瀬戸内海を豊かな海とするための取組を推進するための措置を併せて行うことにより、総合的かつ計画的に推進することとされています。また、これらの施策は、湾や灘その他の海域ごとの実情に応じて実施することとされています。

瀬戸内海において、水質・底質等の悪化、藻場・干潟の減少、沿岸域の人工護岸化、漂着ゴミの増大等の課題に加え、生物多様性・生物生産性の劣化や海水温の上昇など、多くの課題がある中、水産資源の増大につながる瀬戸内海（里海）を再生するための具体的な取組方策について、あなたの考えを述べなさい。

＝ 課 題 2 ＝

○漁業資源維持のための取締船の運航について

本県海域は、干満差が大きく、島嶼^{しよ}や岩礁が多く潮流が複雑なうえ、海面にはカキ筏やノリ浮流し網等の養殖施設も多く、プレジャーボートや護衛艦など、各種船舶航行も輻輳^{ふくそう}しています。

このような環境の中で、本県においては、各種の引き網や刺し網など、主に5トン未満の漁船を用いた中小規模漁業が多く行われています。一方、夜間に無灯火で高速航行等しながらの、密漁が繰り返されている現状もあります。

このような密漁による被害を減らし、漁業資源を守るには、次に示す本県の漁業取締船をどのように運航すればよいでしょうか。

また、夜間の取締活動には、乗り揚げ事故等の危険性も増すため、船位、潮流、水深等の把握のため、航海計器等の適切な活用が重要です。

あなたが漁業取締船の船長になったと仮定し、船員法に規定される船長の職務・権限も踏まえ、あなたが取るべき行動について述べなさい。

【漁業取締船の主要目ほか】

① 船体

アルミニウム合金製 ステップ船首付きディープVオメガ型
全長：20.71m 幅：4.60m 深さ：2.26m
喫水：0.94m 総トン数：29トン

② 主機関 単動4サイクル直接噴射式ディーゼル機関 2基

③ 推進器 LC型5翼固定ピッチプロペラ

④ 航海計器ほか

2舵連動型操舵装置，GPSコンパス，磁気コンパス，多機能レーダー，DGPS航法装置，真風向風速計，プロッター魚群探知機，キセノン式探照灯，GMDSS設備，像安定暗視双眼鏡

⑤ 性能 航海速力 35ノット以上

⑥ 船種 第4種船

⑦ 航行区域 平水区域

⑧ 乗組員 船長を含み5人